

(C)2011「一枚のハガキ」近代映画協会／渡辺商事／プランダス



新藤兼人監督作品

戦争が全てを奪った。戦争が人生を狂わせた。それでも命がある限り、人は強く生きていく。  
**新藤兼人、映画人生最後にして最高の傑作**

第35回 日本アカデミー賞 優秀監督賞受賞

**出演** 豊川悦司 大竹しのぶ  
 六平直政 柄本明 倍賞美津子 大杉漣 津川雅彦  
 川上麻衣子 絵沢萌子 大地泰仁 渡辺大 磨赤兒

**ホールの大画面  
 (5m×9m)で  
 迫力の感動作品を  
 お楽しみください!**

海外の映画祭をはじめ、国内でも日本アカデミー賞、東京国際映画祭など国内外で数々の栄誉に輝く日本最高齢(99歳)の巨匠・新藤兼人。彼が自ら「映画人生最後の作品」と語る本作は、自身が生き残った兵士6人のうちの一人である新藤監督の実体験をもとに作られた。人の命が“クジ”に左右され、兵士の死は残された家族のその後の人生をも破滅に導く。そんな戦争の愚かしさを、新藤兼人は体験者ならではの目線で、時に激しく、時に笑い飛ばすように描いてみせた。

**7月29日(日)** **全席自由**

①10:00 ~ ②13:30 ~ ③16:00 ~  
 (上映時間 1時間54分)

前売 800円 当日 1,000円

- プレイガイド
- ◆篠山市内(市外079)
    - 小山書店 552-0019
    - 木下楽器 552-0321
    - 森本書房 552-0125
    - TSUTAYA篠山店 590-2451
    - パザールタウンNEWS館 594-3700
    - JA丹波ささやま旅行センター 594-3090
    - 黒豆の館 590-8077
    - 紙ふうせん 554-3340
    - こんだ薬師温泉めぐもりの郷 590-3377
    - 篠山市民センター 554-2188
  - ◆丹波市内(市外0795)
    - 春日文化ホール 74-1050
    - かいばら観光案内所 73-0303
    - 丹波の森公苑 72-5170
  - ◆三田市内(市外079)
    - 阪急オアシスえるむプラザ 565-1148
  - ーソンチケット 0570-084-005  
 Lコード 56508 ※発売初日10時~

■主催：篠山市

# 映画を愛する全ての人に、いまを生きるすべての人に、観てほしい。 日本映画界の至宝、新藤兼人が99年の人生をかけた最後の最高傑作。

戦争末期に徴集された兵士100人のうち、94人が戦死し6人が生きて帰ってきた。その生死を分けたのは、上官が彼らの任務先を決める為にひいた“クジ”だった。モスクワ、ベルリン、モンテリオールなど海外の映画祭をはじめ、国内でも日本アカデミー賞、東京国際映画祭など国内外で数々の荣誉に輝く日本最高齢（99歳）の巨匠・新藤兼人。彼が自ら「映画人生最後の作品」と語る本作は、自身が生き残った兵士6人のうちの1人である新藤監督の実体験を元に作られた。人の命が“クジ”に左右され、兵士の死は残された家族のその後の人生をも破壊に導く。そんな戦争の愚かしさを、新藤兼人は体験者ならではの目線で、時に激しく、時に笑い飛ばすように描いてみせた。

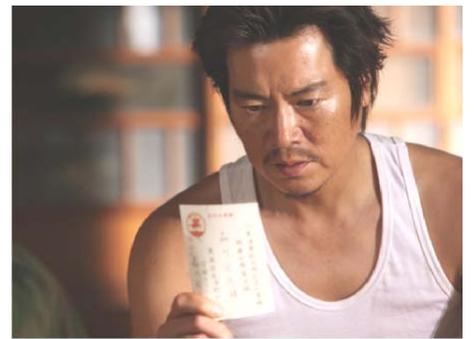


## 【ストーリー】

### 戦争ですべてを失った男と女。彼らを巡り合わせたのは「一枚のハガキ」だった。

戦争末期に召集された100人の中年兵は、上官がくじを引いて決めた戦地にそれぞれ赴任することになっていた。クジ引きが行われた夜、主人公松山啓太は仲間の兵士、森川定造から妻・友子より送られてきたという一枚のハガキを手渡される。

「今日はお祭りですが、あなたがいらっしやらないので、何の風情もありません。友子」検閲が厳しくハガキの返事が出せない定造は、フィリピンへの赴任が決まり、生きて帰ってこれないことを覚悟していた。そして宝塚へ赴任する啓太に、もし生きて残ったらハガキを持って定造の妻を訪ね、そのハガキを読んだことを伝えてくれと依頼した。



豊川悦司(松山啓太役)

戦争が終わり、100人いた兵士のうち6人が生き残った。その中の一人だった啓太が故郷に帰ると、待っているものは誰もおらず、家の中は空っぽだった。

啓太が戦死したという噂が流れ、恋人同士になってしまった妻と啓太の父親は、啓太が生きて帰ってくるとわかり二人で出奔したのだった。

一方、夫を亡くした友子は悲しみに浸る間もなく、舅姑から自分達は年老いて働けないのでこのまま一緒に暮らしてほしいと頼まれる。その上、村の習わしで長男が死んだら次男が後継ぎになるということが決められており、友子には次男の三平と結婚してほしいという。他に身寄りの無い友子には、愛する夫との幸せな人生を奪った戦争を恨みながらも、定造の家族と生きていくことを承諾する。ささやかな儀式で夫婦となった友子と三平だったが、しばらくすると三平も戦争に召集され、そして戦死した。その後、舅と姑が立て続けに死に、ひとり残された友子は定造の家族が唯一残した古い家屋と共に朽ち果てようとしていた。そんなある日、ハガキを持った啓太が訪ねてくる。



大竹しのぶ(森川智子役)

クジ運だけで自分が生き残ったことに罪悪感を感じる啓太と、家族も、女としての幸せな人生も、何もかも失ってしまった友子。戦争に翻弄されすべてを奪われた二人が選んだ再生への道とは……。

生命力溢れる美しいラストシーンに込められた「希望と再生」へのメッセージは観る物に大きな感動をもたらすだろう。また、豊川悦司、大竹しのぶら歴代の新藤作品に出演した豪華キャストが勢揃いし、新藤監督の最後の想いを届ける。



六平直政(森川定造役)